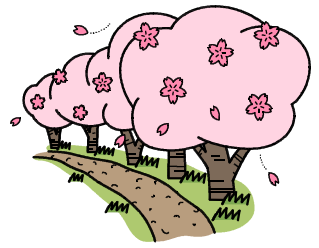




小国町立小国中学校

令和 3. 4. 30 (金) No2

文責 狭間卓史



「頼もしい姿」

先週 21 日 (水) の午後のことです。校舎一階の校長室前廊下が何やら騒がしい様子。日頃、授業時間は静かな本校だけにそれは珍しいことでした。

気になってのぞいてみたところ、9年生女子生徒が「雑巾を大量に貸してください」と職員室に駆け込む姿と、大きなバケツを手にした職員数人が先を急ぐ姿がありました。そのバケツを手にした職員曰く、「理科室の水道が破損し、水が吹き上がっています」とのこと。私も急いで向かうと、そこには勢いよく吹き上がる水道に必死に水槽をかぶせる生徒の姿と、床に溢れ出る水を拭きあげる生徒や職員の姿がありました。よく見ると破損した水道管からは天井まで水が吹き上がっていたことがわかりました。授業中の突発的な出来事にさぞ驚いたことだろうと思いました。教育委員会と町内の業者さんも駆けつけてくださり対応いただきましたが、怪我した者が誰一人いなかったことが何よりでした。まさかと思えることは、いつ何時でも起こりうることだということであらためて学べた機会でした。

しかしながらその一方で、びしょ濡れになりながらも対応に当たってくれる生徒や職員の姿を見て、表現が適切ではないかもしれませんが、安心感を覚える私もいました。ピンチの時こそ、その集団や個人の姿がよく分かると言われますが、本校の生徒も職員も実に頼もしいと思える姿でした。



【このような形状の水道です】

「備える」

今週、28日(水)に本年度最初の避難訓練(シェイクアウト訓練)を実施しました。これは「地震発生時の安全確保行動1・2・3(まず低く、頭を守り、動かない)」を身に付けるとともに、災害時に身を守るために臨機応変に対応しようとする力を育てることを目的とした取組でした。

職員間の事前打ち合わせの中では、生徒には教室での講話や避難経路の説明だけでなく、実際に避難する訓練を経験させたいという思いで一致していました。担当の太田黒教諭は今年の三月まで東京都の公立学校に勤めており、東日本大震災時の記憶と経験があります。そして、他の職員も5年前の熊本地震の記憶が強烈に残っています。いつ何時、どこで、どんな災害に出くわすのか、それは誰にも分かりません。だからこそ万が一の可能性があるのであれば、様々な状況を想定した訓練を重ねていくしかないと思っています。

この後、本校では水害避難訓練や火災避難訓練等を重ねていきます。各ご家庭でも万が一の場合のご家族の約束事を確認されておいてください。その経験の積み重ねこそが、生徒が自分の命を守る力を高める何よりの機会になると思っています。



【シェイクアウト訓練のイラストです】

「ありがとうございました」

4/15(木)~23(金)の期間での家庭訪問では大変お世話になりました。コロナ禍での実施ということで、各担任も細心の注意を払うとともに、各ご家庭のご要望に合わせた形で取り組ませていただきましたが、丁寧にご対応いただきましたことに感謝しかありません。ありがとうございました。これからもよろしくお願い致します。